

26年度 授業改善推進プラン【家庭科】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

- ・ 家庭科に興味・関心があり意欲をもって学習に取り組んでいる児童が多い。また、学習したことを家庭で実践する児童が増えている。
- ・ 家庭状況が多様で生活経験に差があり、技能面での個人差が大きい。個別指導を必要とする児童も数名いる。
- ・ 与えられた課題には意欲的に取り組めるが、自ら進んで考えることには消極的な児童が多い。



2 授業改善の方策

- ・ 観察や実習の結果を整理する際のレポート作成や、実践報告会等の発表会を充実させることを通して言語活動の充実を図る。
- ・ 児童の生活に即した具体的な内容から学習を展開し、一人一人が生活をよりよくする視点で学習が進められるよう実践的・体験的な学習を中心とする。
- ・ 既習の知識や技能を生かし、繰り返し学習することで基礎・基本の定着を図り家庭実践へ発展させる。
- ・ 製作や調理の学習に関しては、二学年の見通しをもたせるためのガイダンス的内容について5年生の初めに行い、平易なものから段階的に繰り返し学習できるように題材を配列する。
- ・ 技能の習熟の程度により個別指導やグループ別指導を行うなど学習形態を工夫する。
- ・ 製作や実習の学習ではワークシートを活用し、主体的に計画を立てて、振り返りなどができるようにする。また、計画通りに学習が進められているかどうかの自己評価をさせる。
- ・ 児童の思いや願いを実現させるために、教材を選択できるように設定する。例えば、**野菜を扱う題材では野菜の種類を選択できるようにしたり、裁縫で製作物を作る題材では、生地を選択したりデザインを考えたりできるようにする。**
- ・ 児童が主体的に学習を進められるように資料や実物を用意し、実際に見たり、触れたりできるようにする。また、修理・点検を終えたミシンや調理器具等の数を十分に揃え、児童一人一人が進んで学習に取り組めるようにする。
- ・ 道具や用具の安全な使い方を理解させて作業がスムーズにできるように指導する。



3 活用につながる指導

- ・ 授業時間内に作品を完成させることができない児童には、つまずきの原因を探り繰り返し練習させたり、中休みや放課後を利用して仕上げさせたりして、達成感、満足感を味わわせるようにする。
- ・ 家庭科で身に付けた知識や技能が総合的な学習の時間や、家庭生活等につながるようにする。